

[成果情報名] β -カロテン含量の高いウメ新系統「NZ22」

[要約] 「NZ22」は、「南高」に「地蔵梅」を交配して育成されたウメ新系統である。自家和合性を有し、完熟果は果皮・果肉が橙色になり β -カロテン含量が極めて高い。果実は「南高」より小さく、酸含量がやや低い。

[キーワード] ウメ、新品種、育種、交雑、 β -カロテン

[担当機関名] うめ研究所 **[連絡先]** 0739-74-3780

[部会名] 果樹 **[分類]** 指導

[背景・ねらい] 近年、消費者の健康意識が高まるなか、ウメにおいても健康に関する保健機能が注目されている。そこで、機能性成分の高い自家和合性品種の育成を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 「NZ22」は、1999年に種子親「南高」に花粉親「地蔵梅」を交配し、2007年に最終選抜した個体で、自家和合性を有する（データ省略）。
2. 完熟果は果皮・果肉が橙色になり、 β -カロテン含量は「南高」の約3~8倍、「地蔵梅」の約1.5~2倍と高い（図1）。
3. 第1次生理落果終了後の着果率は極めて高く、着果が安定する（図2）。
4. 果実重は「南高」より小さく、果肉歩合は高い。また、酸含量は「南高」に比べてやや低い（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 現在、品種登録申請中である。
2. 今後、現地での栽培特性、最適な栽培・加工方法を検討する。

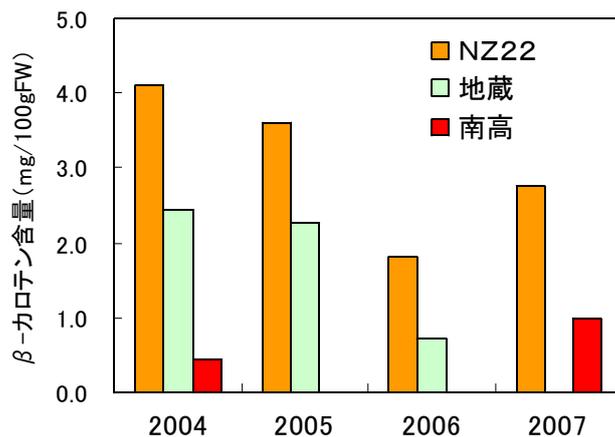


図1. 「NZ22」のβ-カロテン含量
 注) 2004年は完熟落果直後果実、それ以外は完熟落果直前果実

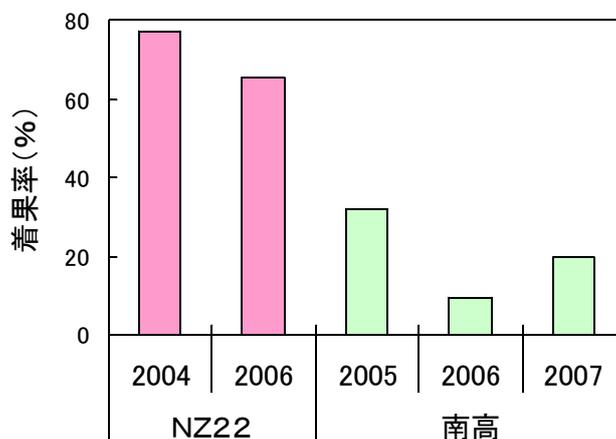


図2. 「NZ22」の第1次生理落果終了後の着果率
 注) 着果率: 側枝の着果数/着蕾数×100、うめ研究所

表1 「NZ22」の果実形質

品種・系統	果実重 (g)		果肉歩合 ¹⁾ (%)		滴定酸 (%)	
	2006	2007	2006	2007	2006	2007
NZ22	28.4	21.6	93.3	92.3	4.0	3.6
南高	44.0	31.0	89.3	89.6	4.4	5.7

注) 2006年のNZ22は7月3日、南高は6月20日
 2007年のNZ22は6月22日、南高は6月12日に調査
 1) 果肉歩合は、果実重量に占める果肉重量の割合

[その他]

研究課題名：高機能性品種の作出

予算区分：戦略的研究開発プラン

研究担当者：根来圭一、大江孝明

研究期間：平成17～19年